

農業と科学

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO. LTD

1987
2

61年度農業観測

修正見通しの概要

農林水産大臣官房調査課

田村 修 一

以下は、昨年12月26日に農林水産省が公表した「昭和61年度農業観測修正見通しのあらましである。

1. 国内経済

61年度に入ってから我が国経済は、物価が極めて落ち着いて推移する中で、個人消費、住宅投資等の国内需要は堅調に増加しているが、円高の影響から輸出は弱含み、設備投資も製造業を中心に伸びが鈍化し、鉱工業生産は停滞傾向で推移しており、雇用情勢もこのような動きを反映して弱含みとなっている等、景気の足取りは緩やかになっている。

なお、61年度を通じての実質成長率は、政府見通しによれば3.0%程度の伸びになると見込まれている。

2. 農業資材

農業生産資材の農村価格は、上期では飼料、光熱動力の値下がり等から4.0%安となった。下期についても、円高が続いていることや海外原材料価格も低迷していること等からみて引き続き弱含みに推移するとみられ、年度間では4~6%程度下回ると見込まれる。

主要資材の下期の農村価格については、

①肥料については、12月に、現行の61肥料年度価格を62年1月からさらに2.2%引き下げる旨の届出が行われたこともあって弱含みに推移すると見込まれる。

②飼料については、配合飼料の農家渡し価格が、円高や飼料穀物の国際価格の低下等を反映して10月に約5%引き下げられたことから、引き続き弱含みに推移すると見込まれる。

③農薬については、62農薬年度の製造業者販売価格(61年12月~62年11月の間適用)が平均2.25%引き下げられたことから弱含みに推移すると見込まれる。

④農機具については、農業機械の卸売価格が12月まで据置きとされていること等からみて落ち着いて推移すると見込まれる。

表1 昭和61年度農業観測修正見通し総括表

区 分	対前年度増減 (▲)率(%)		61年度見通し(前年度対比)	
	59年度	60	当 初	修 正
実質飲食費支出	1.5	2.4	わずかに増加	わずかに増加
農 業 生 産	4.8	0.9	2%程度減少	ほぼ前年度並み
農 産 物 価 格	0.4	0.0	わずかに下回る	わずかに下回る
農業生産資材価格	0.3	▲1.9	3~5%程度下回る	4~6%程度下回る
農 産 物 輸 入	2.2	3.5	わずかに増加	ややないかなりの程度増加

3. 農産物需要

上期の個人消費は緩やかながら着実に増加したが、食料費支出は、1人当たり実質で0.9%の増加にとどまった。

食料消費については、個人消費が下期も引き続き緩やかに増加し、年度を通じても緩やかに増加すると見込まれ、年度を通じた食料品消費者価格もほぼ前年度並みにとどまると見込まれること等からみて、実質飲食費支出は、年度を通じわずかに増加すると見込まれる。

しかしながら、最近では、食料消費水準が量的に飽和状態に達しつつあるとみられることから、実質食料費支出の増加が農産物需要の増加に直接は結びつかず、農産物需要は実質飲食費支出の伸びを下回るわずかな増加に

本 号 の 内 容

§ 61年度農業観測修正見通しの概要.....(1)

農林水産大臣官房調査課 田村 修一

§ 施設野菜の施肥(2).....(3)

一高知県における歴史と今後の動向一

高知県園芸試験場 柳井 利夫
場 長

とどまると見込まれる。

4. 農産物供給

国内農業生産については、

①耕種生産は、米が、天候に恵まれ水稻の作柄が「やや良」となったことからほぼ前年度並みとなったほか、野菜、いも類等が増加するとみられるものの、麦類、豆類、工芸農作物等が減少したため、全体ではほぼ前年度並みと見込まれる。

②繭の生産は、養蚕農家の減少や計画的生産の実施等から12%減少した。

③畜産生産は、ブロイラー、鶏卵等の増加から全体では1%程度増加すると見込まれる。

以上のことから、農業生産総合ではほぼ前年度並みと見込まれる。

また、農産物輸入については、上期では、円高等を反映して輸入価格が大幅に下落したこと等から、果実・その調整品、野菜・その調整品、たばこ、鳥獣肉類・その調整品等が大きく増加し、全体では8.8%増加した。下期については、砂糖類が減少し、果実・その調整品、鳥獣肉類・その調整品等の伸びが鈍化するとみられ、全体でも伸びが鈍化すると見込まれる。この結果、年度を通じた農産物輸入全体はややないしかなりの程度増加すると見込まれる。

5. 農産物生産者価格

上期の農産物生産者価格は、いも類、子畜等は前年を上回ったものの、果実、花き、野菜、生乳等が下回り、全体では5.0%下落した。

下期については、

①畜産物は、国内生産の動向等から、肉用牛がわずかに上回るものの、肉豚が前年同期並みないしわずかに、鶏卵がかなり大きく、肉鶏がやや、生乳がわずかに、それぞれ下回ると見込まれる。

②果実は、みかんが生産の減少からかなり上回り、りんごが生産の増加からかなりの程度下回ると見込まれる。

③秋冬野菜は、生産の増加からかなり下回ると見込まれる。

また、行政価格については、米の政府買入価格は据置きとされたが、麦、大豆等の多くの品目で引下げとなった。

以上のことから、61年度を通じた農産物生産者価格(総合)は、わずかに下回ると見込まれる。

6. 農家経済

61年度の農家経済についてみると、農業所得については、①農業粗収益は、稲作収入、畜産収入はともにほぼ前年度並みとみられるほか、野菜、果樹等が減少するとみられることからわずかに減少すると見込まれる。②農

業経営費は、農業資材の投入増はあるものの、資材価格の値下がりから前年度並みないしわずかに減少すると見込まれる。このため、全国1戸当たり平均の農業所得はわずかに減少すると見込まれる。

農外所得については、前年度の伸びを下回るわずかな増加にとどまると見込まれ、出稼ぎ・被贈・年金扶助等の収入もわずかな増加と見込まれる。

以上のことから、農業総所得はわずかに増加すると見込まれる。

表2 農家経済の動向(全国1戸当たり平均)

区 分	60年度 実 額 (千円)	対前年度(同期) 増減(▲)率(%)		
		59年度	60	61(概算) 4~9月
農 業 所 得	1,065.5	7.6	0.0	▲10.3
農業粗収益	2,896.8	6.2	1.4	▲1.9
農業経営費	1,831.3	5.3	2.2	0.6
農 外 所 得	4,437.0	3.3	3.3	2.0
出稼ぎ・被贈・年金 扶助等の収入	1,413.4	2.7	1.7	1.5
農 家 総 所 得	6,915.9	4.2	2.5	0.8

7. 海外農産物

1986/87年度の世界の穀物、大豆の需要動向をみると

①小麦については、生産量は、アメリカでかなり大きく減少するものの、カナダで大増産となるほか、ソ連、中国等でも増産となることから、世界全体では前年度をやや上回る5億2,170万トンと史上最高を記録すると見込まれている。また、消費量は前年度をやや上回るものの生産量を下回ることから在庫率はさらに上昇し、需要は引き続き緩和基調で推移すると見込まれる。

②飼料穀物については、生産量は、ソ連、中国、カナダ等で増産となるものの、アメリカ、西欧等で減産となることから、世界全体では前年度をわずかに下回る8億3,650万トンとなり、前年度に次ぐ史上2番目の生産量を記録すると見込まれている。消費量は、ソ連、中国等での回復等から前年度をわずかに上回るとみられるが、生産量を大きく下回るとみられることから在庫率はかなりの高水準に達し、需給は引き続き緩和基調で推移すると見込まれる。

③大豆については、世界の大豆生産の6割近くを占めるアメリカでやや減少するものの、ブラジルが回復、中国、アルゼンチンでも増産になるとみられることから、世界全体では前年度をわずかに上回る9,820万トンと見込まれている。消費量は前年度をやや上回るとみられるが、生産量を下回ることから在庫率はさらに高まるとみられ、需給は引き続き緩和基調で推移すると見込まれる。